あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○73

第4章・ゆとり教育世代の意欲喚起術

独り言

人と関わり考えを整理

2学期を迎えました。塾には体験受講も含め、毎日のように新しい子どもたちがやって来ます。「はい、背筋を伸ば～す！」「30秒、黙想、始め！」（約30秒）「はい！止め！」「それでは、始めます！」と私は黒板の前に立ち、教室全体に響き渡るように授業の開始を宣言します。係の塾生が歯切れ良く「れいっ！」と号令を掛けます。子どもたちは一斉に「お願いしま～す」とあいさつをします。私も「お願いします！」とはっきり言いながら一礼します。

しかし、初めて受講する子どもたちは、和やかな雰囲気が一瞬にして引き締まった雰囲気に変わることに驚きます。そして、不慣れなあいさつに「黙想」と言われても目を開けたまま周囲を見回したり、「黙とう」と勘違いして祈りを捧げたりする子もいます。

先日も中1の授業で体験受講の子が目を開けたままキョトンとしていました。私は「黙想は黙とうではありません。目をつむりますが、さて何を考えればいいでしょうか？」とクラス全員に投げ掛けました。元気な男子が「無心！」と回答。「う～ん、確かに。では、〝礼〟は誰に対して頭を下げるのか？」と角度を変えて尋ねました。私は「では、柔道部や剣道部は試合のたびに〝礼〟をします。野球部はグラウンドにお辞儀をしますね。さて、誰に？」と続けました。すると教室は「審判だ！」「夕陽だ！」「うそ！違うよ」とたくさんの発言が飛び交いました。その後、私は志学塾での〝あいさつのルール〟を説明しました。

「黙想は休み時間と勉強時間のけじめを付けるためにします」「礼は〝ネ〟という示へんであり衣へんではありません。示へんは〝神〟に通じるはず。（天井を指差し）塾ではこの辺りにいるような気がする目に見えない神か仏か…、そうだ、〝ミスターX〟とでも呼ぼうか。言い換えれば（胸に手を当てて）〝良心〟に対して頭を下げると考えたらどうだろうか」と話しました。そして「声に出さない独り言で、黙想中は心の中で考えるのです」と気持ちの切り換え方を教えました。

先日、不登校生の入塾面談で、お母様が「何で学校に行きたくないのか言ってくれません。この子はあいさつしても返事もしてくれません」と本人を横目におっしゃいました。私は「子は親を悲しませたいとは思ってはいませんよ。あいさつは交わすもの、礼は敬意の表現。子は親に褒められたいのにそのすべを教えてもらっていないのです」と助言しました。親子の絆は〝やってあげたり〟〝してもらったり〟という取引や契約ではありません。子育てでは、徐々に親元から離す経験をさせ、人との関わりを学ばせたいものです。覚悟ある孤独の中で、子は周りを観察し、他人の会話を聞きながら、混沌（こんとん）とした自分の考えを整理するすべを身に付けていくのではないでしょうか。

（畑山篤＝志学塾塾長）

徐々に親元離れる経験を

教育

三点倒立で新たな視点

両手と額で支えながら逆さまに立つ三点倒立。足が地面から離れるというのは、子どもにとって不安なことです。当さん

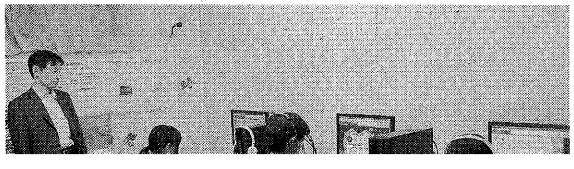
を

げられるようになります。

そして、壁に背中をぴたりと付けて静止できる時間が少しずつ長くなるように。恐怖感も次第に取れていきます。

安心感と安定感が出れば、壁から離しましょう。すると、背中側にぱたりと倒れてしまいます。バランスを取れるまでは、足をたまま頭と手で支え

アニメキャラが勉強指導



「テストで、しか解けない偏差値を上げ番難しい。そ月で3教科平上がった」。東